◇「人新生の「資本論」」（斎藤幸平著、2020年、集英社新書）・「100分de名著　カール・マルクス　資本論」（斎藤幸平著、2021年、NHKテキスト）

　前者はマルクスの資本論を、新資料に基づき、新しい読み方ができることを丁寧に説いた本で、久しぶりに知的興奮を伴いながら頁を読み進むことが出来ました。読後感も充実したものでした。学生さんにも読みやすく書かれています。私は出版された初期の段階で読んだのですが、瞬く間にベストセラーとなっています。日本の人は知的ですね。その影響を受けてNHKの100分で名著の番組でもさっそく取り上げられています。後者の本はそのテキストです。
マルクス資本論といえば、我々学生時代にエンゲルスの本と並んで名前は有名だけど、恥ずかしながら、読んだことがない代表的な本でした。その「資本論」が今見直されています。マルクスはソ連共産主義の崩壊とともに過去のものになったのではなくて、今のエコロジカルな思想を予言する考えに最期は到達しており、いやむしろその先を行っており、今こそマルクスを再評価し、再読すべき時である、ということです。そのように感じさせるに充分な説得力ある好著です。今の資本主義はどう考えても、問題だらけです。このまま進んでいくとは思えませんし、進んではいけないのでしょう。ではどのような社会を構想すればいいのでしょうか。そのようなことに関心がある人には一読を進めます。著者の斎藤幸平さんは、1987年生まれの若い経済思想家です。今後の著作が見逃せません。（2021年3月1日記）